

# 藤沢宿の伊勢参り第1号は平野新蔵

八柳 修之

伊勢参りは古くからあったが、江戸時代になると大流行し、文政13年(1830)の頃には1年で約500万人もの人がお参りしたといわれる。当時の人口約3,000万人からすると、6人の一人もの人がお参りしたという驚くべき数字である。その多くは「伊勢講」という講をつくり計画的にお金をため順番に参詣した団体旅行である。この伊勢参りに欠かせなかったのが「御師」である。御師とはもともと身分の低い神職、社僧のことであるが、伊勢参拝の案内や宿の手配をした人で今流旅行社である。このほか「ぬけ参り」と言って、家族や主人に無断で参詣に出てしまう人が相当数存在した。伊勢参りは善行とされたので道中無償で食事や宿が振舞われた。

「東海道中膝栗毛」(享和2年(1802)に初刷された十返舎一九の滑稽本、主人公の弥次郎兵衛と喜多八が失敗を繰り返しながらお伊勢参りをする様子が面白おかしく描かれている。その中で、藤沢宿の様子は次のように描かれている。

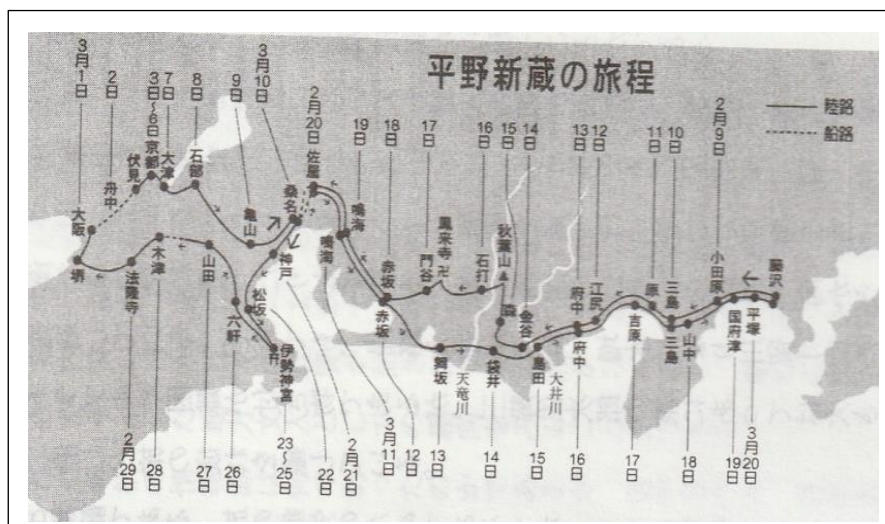
「ふじ沢のしゆくへはいると、両がはの茶や、口をそろへて、ちやや女「お休みなさいやアし。酔ないさけもどざりやアし」馬かた「だんな生きた馬はどふだ。やすくやませう。馬は達者だ。はねることはうけ合いだ」かごかき「かごよしかの。だんな戻籠だ。やすくいきまじやう」(中略) 弥「コウ貴様たちやア藤沢か。アノ宿も大分きれいになったの。問屋の太郎左衛門どのは達者かの」さきぼう「よくだんなはしってござる。随分たつしやでいられます」弥「孫七どのは、まだ勤めているかの」さき「アイサア、だんなはなんでもあかるいもんだ」(以下略)

茶屋の女の客引きや、馬方、駕籠かきと相対で運賃を決めている当時の宿場町の風景が想像できる。物語全体はフィクションであるとされているが、十返舎一九は藤沢まで来たのではないかとされている。実名と思われる問屋の太郎左衛門と孫七の存在である。

平野家(鎌倉屋、郷土史家平野雅道氏ご先祖)は有力な旅籠で代々問屋や年寄りなど宿役人を勤め、「孫七」「新蔵」を名乗っている。その平野家九代目、平野新蔵が文政11年(1828)49歳のときに伊勢、奈良、大阪、京都など旅したおりの記録「伊勢参宮紀行」がある。

同じころ、辻堂羽鳥の三觜佐次郎(八郎右衛門)の道中日記帳があるが、内容は道中の出納帳のようなものである。伊勢参りは古くから行われているが藤沢宿では記録を残したのは新蔵が初めてである。

平野新蔵の旅は文政11年2月9日、藤沢を出発し、伊勢参拝を経て大阪、京都を経て藤沢に3月20日に戻るまでの延べ42日間である。伊勢神宮には2月23日に到着している。同行は河内屋久兵衛と尾島富三郎の二人。記述内容は里程、宿場や立場などの休憩場所、旅籠、旅宿の批評、通った場所の地名、道、川の名前、橋、山、渡船と船賃、名所、風景、風俗、領主と石高、江戸からの距離などが書かれおり、東海道膝栗毛に見られる女の話は一切ない。



さて藤沢宿から伊勢神宮までの14日間の足取りを辿ってみよう。漢数字は算用数字に直した。

第1日：2月9日、出立。同役衆風早までお見送り。「如月や門出長閑に旅ころも」

新蔵は文人で歌にも通じていた。小田原宿泊。

第2日：2月10日。小田原から箱根へ4里8丁。箱根鶯多し。「玉くしけ箱根の山の鶯を籠の内にてわれは聞けり」箱根の山は籠に乗ったようである。三島泊

第3日：2月11日、天気、笈が平、あま酒名物也。箱根より三島へ3里28丁、三島より千貫樋あり伊豆の水を駿河へ取る。三島大明神沼津より原へ1里半。水野出羽守様御城下、4万石。原宿、大黒屋伝左衛門へ泊。原より吉原へ3里6丁、

第4日：2月12日、晴天、日蓮宗重円寺、ふじの城酒名物也。ふじ川、船賃24文、川向の右に身延山道あり。茶屋あり、栗の粉餅名物、蒲原より由比1里、海道を田子の浦という。由利から興津へ2里12丁。立場西くら沢、名物、竜王たばこ、さざえつばやき。さった峠、ふし山見へる、海を見晴らし風景よし。興津川、徒渡し。興津から江尻へ1里3丁。三保松原、長さ1里、羽衣の松、清見寺。江尻泊、京屋源兵衛。



田子の浦ゆ 打ち出でて見れば 真白にぞ 富士の高嶺に 雪は降りける

山部赤人

田子の浦



さった峠



三保の松原

第5日：2月13日、晴天、京屋にて案内を頼み久能寺、富山龍華寺、見晴らしよし。境内に大サボテン、蘇鉄色々有、是より久能山へ1里余、案内を頼 100 文、御内陣拝見別段 200 文。

府中宿よしづ屋忠兵衛方泊り。

第6日：2月14日、曇、府中より丸子へ1里半、東照宮天照大神宮拝殿。安部川、徒越し、名物あべ川もち。丸子より岡部へ2里、名物とろろ汁。蔦の細道という峠16丁。岡部より藤枝へ1里26丁。本多豊前守様御城下4万石。江戸へ48里。藤枝より島田へ2里8丁、島田より金谷へ1里。大井川駿州、遠州境也、川越賃不定、金谷泊、松本新兵衛宿悪し。

第7日：2月15日、曇、金谷より日坂へ1里24丁、日坂迄山坂なり、小夜中山、上り16丁、下り之方並木、往来の真中に夜泣き石あり、日坂より掛川へ、1里29丁、掛川より秋葉山へ廻る、太田撰津守様、5万3千石、江戸へ55里余、森まで3里、名物くづ布。掛川から森まで山道にて難処計也。森、江戸いづみや喜右衛門泊り、宿よし。掛川から森（茶どころ、森の石松で知られる）から脇街道に入ったのは秋葉山参詣のため。誌面からすると伊勢参りのほか、目的でなかったかと推察される。

第8日：2月16日、森より一ノ瀬へ3里、小奈良安1里半、犬居へ1里半、犬居より秋葉山へ50丁、秋葉山迄上り50丁、石の丁杭あり、一の鳥居、正徳4年6月、二の鳥居、杉山の中にあぜれんげという花盛り也、三の鳥居、仁王門、杉大木あり、経堂、御社前に唐銅大鳥居、(秋葉山参詣は、詳しく書かれているが省略)、西川という天竜川の川上、舟賃24文、石内泊、山形屋八左エ門、宿よし。



秋葉山大権現



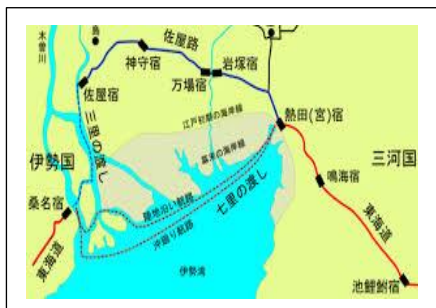
鳳来寺東照宮

第9日：2月17日、大平へ2里20丁、巢山へ1里半、大平峠大難所也、遠州・三州国境なり。座頭ころばし、籠に乗られぬ処也。この辺鶯多し。巢山昼食、鳳来寺へ。寺領1500石、東照宮、薬師堂、十間四面、前堂、奥院、三重の塔、唐銅大仏、9丁下り、**門谷村泊**、柏屋与七

第10日：2月18日、滝川、綱手ぐり船、1人3文、かどやから新城へ3里、新城中程に福来寺といふ大寺あり、松並木30町程行、本能原とて大きな原あり、豊川村、豊川稻荷大明神大社、奥庭に本社あり、豊川へ廻り御油へ、御油から赤坂へ16丁、**赤坂泊**、かすや清三郎へ泊、

第11日：2月19日、赤坂より藤川まで2里9丁、藤川から岡崎へ1里半、瑞念寺、浄土宗の大寺、芭蕉翁の碑。岡崎より池鯉鮒へ3里、大樹寺、矢作川、矢作橋長さ208間、池鯉鮒から鳴海へ2里。池鯉鮒から1里程行三州・尾州国境板橋あり、長さ28間。桶狭間古戦場、**鳴海泊**、橋本屋八兵衛方、宿悪し。

第12日：2月20日、鳴海より宮へ1里半、名古屋、熱田大明神、大鳥居、山門、拝殿、神楽殿、社領1万石、名古屋の町殊の外賑か也、五重之御天守を拝見いたす也、金の鯨日に輝く也。森山、津島から佐谷へ、牛頭天王、拝殿、社領1300石、**佐谷泊**、升屋甚八、宿わるし、



宮～桑名間 七里の渡し



伊勢参宮街道地図



伊勢神宮 内宮

第13日：2月21日、佐谷より桑名3里、左方に川役所、定目をよみ瀬舟に乗也。桑名より四日市へ、松平越中守様御城下、10万石、江戸へ99里余。四日市から**日永追分**(50丁約5km、追分で東海道道と分岐、江戸から約400km)。神戸(ごうど)へ1里28丁、**神戸泊**、きぐすりや勘兵衛、宿よし

第14日：2月22日、白子へ1里半、神戸城主本多丹後守様、1万石、天正年中織公居城也、白子より上野、津4里、此間に一身田と一向宗の寺、津より雲津へ2里、藤堂和泉守様御城下、32万3000石、雲津より松坂2里、**松坂泊**、太和屋宿よし、

第15日：2月23日、松坂より小俣(おばた)へ4里、殿村忠三郎世話人、ぬけ参り施行宿有、松坂より2里行、櫛田川、舟ちん12文、小俣へ2里、祓い川、舟ちん6文、小俣から宮川、山田へ29丁、山田に泊まったと思われるが宿名記述はない。日永から伊勢参宮道斎宮まで18里、**江戸から117里(約470km)**

第16日：2月24日、曇、昼から雨、外宮、内宮の順に参拝した様子が詳細に書かれている。外宮、40末社、参宮の道は北御門と一の鳥居と二道あり、北御門橋、此橋の前にて下乗する也、是より仏具、兵具を帯して入る事を禁ズ也、宇治橋唐銅擬宝珠、長さ60間、五十鈴川也・・・内宮へ

第17日：2月25日、晴天、山田より二見が浦へ、2里半、26日、山田出立、奈良、大阪、京都を廻り3月21日、藤沢に戻っている。合計329里(1,316km)、日数42日、一日平均31km。

追記：平野新蔵は平野道治の事で、藤沢宿の地誌「鶏肋温故」(けいろくおんこ)の著者でもある。新蔵こと道治は嘉永2年(1849)に亡くなっており、常光寺の過去帳には孫七父平野新蔵の事とあるそうだ。享和3年(1803)当時、平野屋孫七は総畳数58畳、63坪を有し渡辺峯山も宿泊し、峯山はこの時の様子を旅日記「遊相日記」の中に「ひらのや」での朝食風景をスケッチしている。

参考・引用資料

- 「伊勢参宮紀行」藤沢市史料集(28)藤沢市文書館。 「伊勢詣と江戸の旅」金森敦子、文芸春秋
- 「藤沢地名の会会報」第103号、藤沢地名の会
- 「東海道藤沢宿」三浦俊明 藤沢文庫 名著出版 「藤沢市史」第6巻